

提供日 2014/5/28

タイトル 世界最小体重で心臓手術をした赤ちゃんが退院します

担当 県立こども病院

連絡先 こども病院医療サービス課企画サービス係
(こども病院 新生児科医長 長澤)

TEL 054-247-6251



～ともにつくる 信頼と安心の医療～

世界最小体重で心臓手術をした赤ちゃんが退院します

(要旨)

静岡県立こども病院で、在胎 27 週 4 日、体重 810g で出生し、先天性心疾患

(はいどうみやくへいさけんしんしつちゅうかくけつそん 肺動脈閉鎖兼心室中隔欠損、しゅようたいはいそくふくどうみやく 主要体肺側副動脈) に対する手術を、生後ま

もなくから繰り返し行った女兒が、この度元気に退院することになりました。

複雑心奇形を合併した 1,000g 未満の乳児の救命は非常に困難なことであり、肺動脈閉鎖兼心室中隔欠損、主要体肺側副動脈で救命できた、調べるうる限りでは世界最小体重です。

患者ご家族の了承が得られたため、下記のとおり記者会見を行うこととしました。

記

1 日時

平成 26 年 5 月 29 日 (木) 13:00～14:00

2 場所

静岡県立こども病院 大会議室 (L 棟 3 階)

3 出席者 (予定)

静岡県立こども病院循環器センター長 (副院長)	坂本 喜三郎
〃 新生児センター長	田中 靖彦
〃 新生児科医長	長澤 眞由美
〃 周産期センター長	西口 富三
〃 小児外科副医長	三宅 啓

患者 (生後 8 ヶ月の女兒) およびそのご家族

4 留意事項

患者ご本人の撮影は可能ですが、ご家族の撮影はご遠慮ください。
また、上記日時・場所以外でのご家族への取材もご遠慮ください。

<参考資料>

※出生から退院までの経過

- ・平成 25 年 8 月 31 日 在胎 27 週 4 日、体重 810g、双胎の第 1 子として当院にて出生（女児）
胎児診断にて先天性心疾患（肺動脈閉鎖兼心室中隔欠損、主要体肺側副動脈）を指摘されていた
- ・生後 68 時間 生後まもなくから心不全を発症し、内科的治療では改善を認めないため、主要体肺側副動脈をしぼる手術
けっさつじゅつ
（結紮術）を施行
- ・生後 9 日目 術後も心不全が持続したため、再度結紮術を施行
- ・生後 11 日目 合併症として消化管穿孔^{しょうかかんせんこう}を発症したため、人工的に肛門をつくる手術を施行
- ・生後約 2 ヶ月 2 回目の結紮術後心不全は改善し、人工呼吸器管理から離脱
- ・生後 4 ヶ月 人工肛門を閉鎖する手術を施行
- ・生後 7 ヶ月 体重増加を待ち、心疾患の根治手術を施行（体重 2,900g）
術後に再度消化管穿孔を発症したため、小腸端々^{しょうちょうたんたん}
ふんごうじゅつ
吻合術^{ふんごうじゅつ}を施行
- ・平成 26 年 5 月 29 日 生後 8 ヶ月、体重 2,740g で退院